

平成27年度 第5回 諏訪市まち・ひと・しごと創生有識者会議

開催日時	平成27年11月24日（火） 14：00～16：00
開催場所	諏訪市役所第1委員会室
出席者	<p>【諏訪市まち・ひと・しごと創生有識者会議委員】</p> <p>中嶋博美委員、岩波寿亮委員、宮坂勝太委員、今井高志委員、平尾毅委員、藤沢晃委員、林直樹委員、山崎三千代委員、佐久秀幸委員、金子ゆかり委員</p> <p>【諏訪市まち・ひと・しごと創生本部】</p> <p>平林隆夫副市長、小島雅則教育長、関基総務部長、河西秀樹企画部長、伊藤幸彦市民部長、土田雅春健康福祉部長、竹内桂建設部長、湯沢広充会計管理者、宮下隆水道局長、高見俊樹教育次長、松崎寛議会議事局長、金子雄二観光課長（代理出席）</p> <p>【事務局】</p> <p>木島清彦企画調整課長、前田孝之企画調整係長、河西俊明企画調整係主査、牛山智哉企画調整係主査</p>
	<p>【次第】</p> <p>1 開会</p> <p>2 市長挨拶</p> <p>3 協議事項</p> <p>（1）諏訪市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について</p> <p>4 意見交換</p> <p>5 その他</p> <p>6 閉会</p>
	<p>1 開会</p> <p>河西企画部長より開会宣言があった。</p> <p>なお、柳澤委員、宮坂友子委員、青山委員、坂内委員、牛山委員が都合により欠席となった。</p> <p>2 市長挨拶</p> <p>（金子市長）</p> <p>皆さんこんにちは。日頃から諏訪市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について、ご指導、ご協力をいただき、ありがとうございます。今日は、第5回目の開催となる。前回皆さんからいただいた意見を反映させ、今回案の提示をさせていただいた。前は、KPIの指標をまだ加味していなかった。本日晒した案は、皆さんの意見を反映させるとともに、KPIを設定したものになっている。タイトルについても、「ものづくり」という言葉から受ける印象は百人百様であり、昔の規格大量生産の工場のイメージを抱く方もいるということで、「最先端に挑み続ける「ものづくり」で「ひとづくり」という形に少し修飾語を付けた。これに対しても、まだ色々な意見があろうかと思うが、現在、パブリックコメントを実施中である。この後、諏訪市議会の皆様からも意見をいただくことになっている。今日、有識者の皆さんからも意見をいただき、最終的には、12月下旬に予定している有識者会議、本部会議で決定という形になる。本日は最終案に近付けるための、最後の大きなステップになるのではないかと考えているので、忌憚のない意見を寄せていただきたい。諏訪市の総合戦略を魅力ある輝くものにしていきたいと思っているので、よろしくお願ひしたい。</p> <p>本日欠席の委員の中には、コメントで意見を寄せていただいた方もいる。また、別に</p>

機会を設けてお話を伺えるという方もいると思う。本日の会議で言い残したことがあれば、文書でも、時間をつくって個別に企画調整課担当者と話をさせていただいても結構なので、よろしくお願ひしたい。

(河西企画部長)

それでは、協議事項に移りたい。以下の進行については、会長の金子市長に願ひする。

(金子会長)

協議事項に入る前に、定足数の確認を事務局より願ひしたい。

(事務局)

有識者会議の委員数 15 名のところ、本日出席の委員が 10 名となる。半数以上の出席をいただいたので、定足数に達していることを報告する。

3 協議事項

(金子会長)

それでは協議事項について説明をする。(1)「諏訪市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)について」、事務局から説明したい。

協議事項(1)について、資料 No.1 に沿って事務局から説明があった。

(金子会長)

それでは一之柱から順次、質問や意見を伺いたい。地方創生総合戦略を構成する 4 つの柱のうち、一之柱は、雇用創出や産業振興に関するものだ。基本コンセプトのとおり、諏訪市の特色である「ものづくり」を中心とした施策により総合戦略を牽引する分野ということで位置付けてある。一之柱による施策、数値目標や KPI について気付いた点、自由に忌憚のないところで発言をいただきたい。

(A委員)

24 頁の「創造都市～Creative city～をつくる」というところだが、10 頁の一之柱の中に出てくる基本的方向として、「起業や創業支援、新たな人材の誘致・育成により、諏訪市の特色ある地域産業と外部人材の専門性や意欲ある起業者の発想力を結び付け、新たな「可能性」を生み出す「創造都市～Creative city～」をつくることにより、活発な創造活動により革新的かつ多様性のある産業育成を目指します。」とあり、ここが肝になると思っている。「日本一創業しやすい都市」とか、諏訪市だからこそういったチャレンジができるんだということ謳わないと、従前の既存産業の育成のところ色々手厚く取組や KPI が示されているが、ここは簡単に触れられていて、これが本当に人口減少対策、人口を増やそうという目標達成につながるのか心配である。

(金子会長)

事務局はどうか。

(事務局)

こちらについては、担当課とも協議をしたが、これから取組がはじまる分野である。どの程度の目標設定をするべきか、まだ未知数なところがある。市とすれば少しおとなしい書き方になっているが、一つ大きな特色としていきたいと考えている。もっと積極的な表現ができれば、その方が良いと思っているので、具体的な意見をいただければ助かる。

(金子会長)

私たちも目標としたいところ。開発型だとか未来創造的な分野にシフトしていくという意味では牽引をしていく分野である。ただし、KPI は今現在指標を持っていないと比較検討が

できないため、何か良いアイデアがあればご教示いただきたい。

(A委員)

ご存じのとおり、Forbes JAPANによると、開業率が長野県は47都道府県中47位という不名誉な報道もあり、県をあげて創業・開業支援に取り組んでいる。例えば、そういった創業・開業の支援制度やセミナーなど、こういった分野に力を入れるということを謳えば宣伝にもつながると思う。もう少し明確に、例えば、ITを使った何かだとか、あるいはそれが世界とつながる何か、例えばJETROや税関を使った、諏訪地域の優位性といったものを謳うとか、日本一創業しやすいのは諏訪市であると言示することができる目玉となるようなものを置くことができたらと思う。具体的に何かと言われると、なかなかアイデアがないところだ。

(金子会長)

これからの産業支援策として課題として組み込むというか、課題として抱えていくということだと思うので参考にしたい。

(B委員)

22頁の農業分野について、農業振興による競争力の強化とあるが、諏訪湖の産物が入っていない。諏訪湖の水産物資源は、ワカサギから始まって鮭鮎、スズメ焼きなどがある。このような地域の味というものを知ることが非常に大事なことだと思う。それから、諏訪市に来なければ買えないような地域ブランド商品。そのようなものをつくっていくことが新しい農業の最大の魅力であり、新しい分野だと思っている。また、農業と観光は、連携すればそこに新たな産業とまではいかななくても、新しい分野が広がる可能性が大きい。どこかに取り入れていただければと思う。

(金子会長)

水産物のことは漏れていた。シジミの採れる諏訪湖という取組を県も掲げており、県の総合戦略の中に位置付ける予定である。諏訪圏域全体での取組という中に入っていたので、諏訪市単独でというのを漏らしてしまったかもしれないが、諏訪市としてどうするか検討したい。農業と観光のコラボレーションも可能性として期待できる。総合戦略の中に書き込みたいと思う。

観光という点ではどうか。KPIについても目標数値を入れた。疑問、質問があると思うがどうか。

(C委員)

観光客入込数で、諏訪観光協会としては650万人という数値を目標としているが、ここに掲げた数値目標は640万人である。外国人の宿泊数等に関しても、数字が少し違うのではないかな。

(事務局)

こちらの数値目標は、6市町村で行っている諏訪地方観光連盟で2年前に観光戦略プランを策定したときの数字を根拠として掲載している。また、諏訪観光協会とすり合わせをし、相談したいと思う。

(金子会長)

すり合わせをお願いしたい。他に意見・指摘をお願いしたいが、25頁の空き店舗活用件数について、駅前はどうカウントするのか。

(事務局)

駅前の関係は、四之柱でも若干出てくるが、空き店舗は駅前だけではなく市全体としての空き店舗活用という指標である。したがって、駅前もその対象に当然なっているが、駅前に限らず市内全体で空き店舗を活用して新たな取組をした件数について、年間2件を目標としている。

(B委員)

諏訪市の資源について、私は温泉と良質な水道だと思っている。水道料は県下一安い。水を使う企業誘致はどうか。水はこれから大変な戦略的な物資になると思う。

(金子会長)

それについてはコメントを入れる場所もあるかと思うが、産業分野での意見で良いか。

(B委員)

どこでも良いかと思う。水道の場合は、あまり産業分野でとは考えないが、産業分野で考えれば、新たな企業誘致にも加わると思う。

(金子会長)

事務局からコメントはあるか。

(事務局)

総合戦略ではハード的な施策にはあまり触れていないため、水道分野は抜けている。諏訪市は良質な水を安く提供できるところが魅力的な部分であると思っているので、何かしら書けるのであれば組み込んでいきたい。

(金子会長)

それでは二之柱に移りたい。四本の柱のうち、二之柱は移住定住促進に関する分野となる。諏訪市の魅力の発信に加え、一之柱による雇用創出や所得向上により、若者層のUターンや移住定住の促進によって社会増への転換を図るために必要な取組を進めていく。二之柱の数値目標やKPIについて意見・提案をいただきたい。

(D委員)

移住や空き家バンクについて、八ヶ岳山麓が若い人にとって魅力があるように、実際に取組を進める中で実感している。したがって、空き家バンクなどは、あまり過大な目標値は設定すべきではないと思う。むしろ、広域的な視点が必要ではないか。諏訪市は住んでいる人よりも昼間人口が多いまちということに触れてないが、諏訪市に移住しなくても諏訪市で働くことで、少しでも雇用が増え、諏訪市の昼間人口が増える。諏訪市に住まなくても諏訪市のためになるということも入れ込むべきではないか。

(金子会長)

その指標として使えるものをKPIとして検討しなければならない。

(事務局)

昼間人口に関しては国勢調査で数字を出している。従業者数としては、一之柱の数値目標として設定しているが、これは諏訪市で働く方的人数で、市内外どこに住んでいようが関係ない数字になっている。ただ、二之柱の部分で諏訪地域に住んで諏訪市で働いてもらうという視点は抜けているので、調整させていただき、良い表現があれば検討したい。

(金子会長)

指摘いただいた話は、住んでみたい・選ばれたいという括りなので、二之柱のところだけでなく全体を通じてその視点が必要だという指摘として受け止めてさせていただき、少し研究したい。

(事務局)

少し補足したい。過日、移住セミナーで東京へ行ってきたが、諏訪市のPRをする中で、様々な相談を受けるケースが多くなっている。移住にも色々な考え方があり、山間部に住んで農業をやるという暮らしもあれば、もう少し都会で周辺にスーパーや病院があるところでの暮らしもある。やはり気になるのは、医者がいるか、買い物ができる場所かということであり、それについて諏訪市は十分整っているという説明をしている。最初は山間部のログハウスに住み、大きな犬を飼ってというイメージを持っているが、生活のことを考えると、医療のこ

と、子育てのこと、そういう部分で整っているかどうか、車がなければ生活できないのかという部分もある。最近、移住希望者の方が「諏訪市は便利だ」という話をされることが多く、このようなことをうまく掴んで移住促進ができれば良いと考えている。

(金子会長)

二之柱は、人口ビジョンの目標値に対して社会増を狙った施策を捉えているが、すでに申し上げているように、6市町村諏訪圏域全体で数値を上げていくという取組も必要である。本日検討いただいているのは、諏訪市の戦略であるため、二足のわらじののだが、その視点は含みながら取り組みたいと思っている。

(A委員)

KPI だが、従業地昼夜間比率というものがある。昼間そこで働いている人の昼と夜の比率が、諏訪市は1.13で1を超えている。移住促進で山間部に住むけれども生活の質を落とすたくないとか、働きながら動線で買い物ができるところが良いとか、そういったところでまちをデザインし、連携しながら移住を促進して、諏訪市で働いてもらい、住むのは他市町村といったことも十分あり得ると思う。全て諏訪市の中で完結しなければいけないという発想でなくても良いと思うので、うまくKPIを設定できればと良いと思う。

(金子会長)

それではもう少し研究をお願いしたい。他にどうか。

(E委員)

「UIJ ターンによる起業数年2件」とあるが、私は2年前に起業した。岡谷市か諏訪市か茅野市か、どこにしようかというときに、実は真っ先に諏訪市が消えた。それは、サポートが若干弱く感じたからだ。岡谷市には、色々な補助制度や創業支援センターがある。茅野市はそこに住んでいなければ支援制度が使えなかった。諏訪市は、補助制度や創業支援に関する情報提供が非常に弱いように感じた。それでチャンスを逃している可能性が高いのではないかと思うので、うまく情報発信をして欲しい。FacebookやTwitterを使ってということもあるが、実際に起業した人から発信するなど、色々な人が関わって諏訪市全体をアピールするというような形にできれば良いと思う。特に同世代の人から話を聞いたり、移住した人達から情報発信をしてもらっても良いと思う。高校生、大学生にもうまく関わってもらっても良い内容になると思う。いわゆる行政だけが一方的に発信しているような「良いですよ」アピールだけでなく、悪い部分もあるが問題なく住むことができるというような発信もできれば、若い人達にもうまくアプローチできると思う。

(金子会長)

大事な指摘をいただいた。取組の中で参考にしたい。

(F委員)

総合戦略の構成について、例えば二之柱のところは、社会増減数、生産年齢人口、観光入込客数といった数値目標があって、その下にKPIを設定しているが、数値目標とKPIの関係性は。また、目標数字が過小に見えるが、実は右肩下りの社会の中では意欲的な数字にも見える。これを達成できなかったとき、国から何か罰則があるのか。達成が簡単なものもあると思うが、商店街の商店数や従業員数は、ものすごい勢いで減っているのに、現状維持で精一杯のところに乗せしているような感じもある。数値目標とKPIの関係、KPIを達成できたとき、達成できなかったときの話が見えない。

(金子会長)

事務局から解説願いたい。

(事務局)

まず、数値目標とKPIについてだが、例えば10頁の一之柱に数値目標を掲げているが、こ

ここにある数値が一之柱全体としての目標値になる。一之柱に基づく具体的な施策ということで、工業振興や観光振興に取り組むが、それぞれの施策の中での指標が KPI ということで、こちらも目標値を掲げているという形になる。国の総合戦略策定の手引きや、他の市町村も同じ構成となっている。諏訪市で一之柱全体の目標があり、そこでの数値目標を立てて、その下の施策ごとに KPI を設定するという形となる。

また、達成できなかった場合について、具体的に国から通知などはない。ただし、数値目標や KPI に基づき総合戦略の見直しをしていくので、例えば目標値が過小であったとか、過大であったという見直しも必要であると思われる。また、その目標値を達成するために新しい取組が必要だという判断もすることになるので、改訂の中で目標値の妥当性を見ていくことになると思う。

(事務局)

補足させていただく。数値目標を毎年ローリングして総合戦略の見直しを行うことになり、その中で目標数値より高かった、低かったがあらうかと思う。1年間を通じて施策を実施してみてどのような状況だったか勘案し、KPI については見直しをかけていながら、どのような取組をすべきか議論する場面というのは今後も必要になってくると思う。

(金子会長)

商店数の目標が 600 店だが。

(F 委員)

もっと下げてはどうかというのが実感である。

(金子会長)

目標値を設定した背景があると思うが、商店数の減り方が 6 市町村で比較すると諏訪市が一番少なく、商業の中心という意味では、右肩下がりではあるが緩やかである。頑張るといふ気持ちも含めてかもしれないが、どうか。

(事務局)

KPI については担当課とも調整して数字を決めている。確かに商業統計調査を見ても商店数は減っている状況にあるが、そういう中で、600 店を維持したいということで調整させていただいている。ただし、有識者会議で意見をいただいたので、改めて目標値の妥当性を確認していきたい。

(金子会長)

情報をいただければありがたい。女性の視点ではどうか。三之柱の子育て関係にも関わってくるが。

(G 委員)

人材会社に勤めており、移住ではなく転職支援で毎週東京に行くが、長野県に住みたいという相談が結構多い。実際には、親御さんの元に帰りたいが仕事がないので仕事を探したいということで、意外と長野県に興味を持って来てくれるかなと思いつつも、やはり親御さんのところに戻って来る女の子が多いというのが感触としてある。それも優秀な女性である。優れた仕事をしてきているが、諏訪地域に戻ってきて、希望する職種とマッチングできず、もったいない働き方をしている女性が多い。希望する職業につなぐことができるような移住になれば良いと思う。

(金子会長)

昨日、新宿駅で諏訪市のある社長さんに会った。拠点を関東地域に設けたということで、「どうしてですか」と聞いたら、「優秀な若い人達が集まっているところはどうしても都会になってしまって、まずそこに拠点を持っていけないと関わりを持ってない」という話があった。だから、二段構え三段構えで取り組んで行かなければならない現実があるということの思い

知らされたばかりである。二段構え三段構えに、六段構えぐらいまでに行った頃には諏訪市に来ていただけるかもしれないという希望を持ちながら取り組みたいと思う。

それでは三之柱に進みたい。三之柱は自然増を目指す取組みとして位置付けている。それからもう一つ、ものづくり教育を核としたキャリア教育推進や郷土愛を醸成して「ひとづくり」を行う分野でもある。これについて意見・提案等あればお願いしたい。

(H委員)

48頁の「働き続けたい！」希望をかなえる」というところで、「社員の子育て応援宣言！」登録企業数23を、この5年間で40まで伸ばすというのは少ないのではないか。できればもう少し増やした方が良い。

(G委員)

「社員の子育て応援宣言！」の諏訪地域窓口を担当している。県からの委託により各企業を訪問しているが、話を聞いてくれる企業はまだ良く、「うちは子供を育てている人いないから」と男性だけの職場の管理職が平気で言う状況。男性は子育てをしていないと思っている。長野県の「社員の子育て応援宣言！」というのは、すごくハードルの低いもので、もう一つ上の「職場いきいきアドバンスカンパニー」認証制度というものができた。これは難しく、諏訪地域ではまだ1社も名乗りをあげておらず、長野県内では今月で5社になる予定である。したがって、もう一つ上のこの認証マークを入れた方が良いのではないか。「社員の子育て応援宣言！」は、県内でそろそろ800社に届くところ。建設業界でも昨年から今年かなり増えている。建設業では入札の加点になるのでここで一気に増えたが、本当に中身があるかと言われると私にも自信がない。「職場いきいきアドバンスカンパニー」認証制度は実績がないと受けることができないので厳しい。

(D委員)

それは入札の加点になるのか。

(G委員)

まだ加点にはならない。おそらく1、2年おかないと加点にならない。

(金子会長)

「社員の子育て応援宣言！」の目標値が小さいのではないか、あるいは「職場いきいきアドバンスカンパニー」をKPIに設定すべきではないかという意見に対してどうか。

(D委員)

そのとおりだと思う。「社員の子育て応援宣言！」は、登録をどんどんやろうと思えばできる制度なので、次の「職場いきいきアドバンスカンパニー」でもっと高みを目指しても良いと思う。

(金子会長)

詳細についてまた相談したいと思う。他に意見をいただきたい。

(A委員)

先ほどの社会増と自然増の両方を貫くコンセプトだと思うが、長野県初の女性市長であるので、「女性が日本一輝く都市」くらいのことを謳って、全国から働く意欲のある女性が集まるまちだと注目される取組を打ち上げて欲しい。先月、内閣府まち・ひと・しごと創生本部の山崎統括官の話を聞いた。そのとき、移住を考えるとときに女性、奥さんの仕事があるかどうかということが大事だと述べられていた。残念ながら地方ほど女性の能力をきちんと評価した処遇をしていないということも言われていたので、この部分を促すような目標を掲げるのはどうか。「社員の子育て応援宣言！」もその一つかもしれないが、自然増だけでなく社会増としての子育て世代をターゲットにできる可能性が高い。

もう一つ、山崎統括官が話していたのが、女性は子供の教育に非常に熱心だということだ。

初等教育が充実していなければその土地を離れてしまうと話をしていた。転入者に関するアンケート調査結果において、「諏訪市を転入先に選んだ理由は何ですか」の上位が「通勤通学における交通の便が良い」であり48%とあった。学校や通勤に関する評価は、諏訪市は高いところだと思うので、そういったところを絡めながら日本一女性が輝ける都市を宣言してはどうか。

(金子会長)

その視点は盛り込める余地があるか。

(事務局)

一之柱でも女性の就業には触れているが、若干程度になってしまっている。24頁で掲げているが、日本一輝くというような大きな提言にはなっていないので、全体で調整させていただきたい。私も内閣府の山崎統括官の講演会は聞いており、確かにおっしゃるとおりだと思う。新しく取り込めるものがあるかどうか調整したい。

(金子会長)

とても大事だと思う。これからの社会、しかも地方においては女性の活用をどのようにするかというのが、一つの大きなキーポイントだと思う。私も、諏訪東京理科大学の今後については、理系女子「リケジョ」、これに相当力を入れてしっかり押さえないといけないのではと思っている。それとともに、女性の能力をしっかりと受け止めて、仕事をしながら出産・子育てができるということは、指摘のとおりである。総合戦略の中では位置付けがまだ弱いという指摘だと思うので、肉厚にできるように調整したい。

(G委員)

「結婚したい！」希望をかなえる」の婚活支援だが、諏訪市が計画している婚活は、対象年齢が20歳から45歳となっているが、親子の差である。40歳の女性が参加するとき、20代の若い女の子と一緒に出るという声がよく聞かれる。婚活事業が役に立っているかどうかを知りたい。市役所の中ではなく、外に目を向けたとき、もっと得意な人がいるのではないかと。もう少し柔軟に考えて、民間に委託するのではなくお任せするというシステムは、今後、婚活支援だけではなく色々ところで出てくるかどうかを知りたい。

(金子会長)

私も全く同じ発言を部内会議で申し上げた。研究課題としているが、婚活パーティーを主催すればそれで話がうまくいくという話ではない。非常に個別的なプライベートな話であり、きちんと結び付けることを実務的にやってくれる人に要請した方が、成果が上がるかもしれないと申し上げた経過がある。ただし、それについてKPIとして設定できるかどうか。担当課の意見はどうか。

(事務局)

一昨年まで企画調整課で婚活事業を実施しており、現在はまちづくり・男女共同参画推進課で行っている。指摘のとおりで、過渡期でもあり市長から指示を受け、予算については違う形で対応できないか庁内で研究しているところである。新しい取組ができると考えている。

(G委員)

予算を婚活事業にいくら使いますというのを、私たちが見える場所に出していただきたい。それに対して、民間には人と人を会わせるプロのような人もいる。この予算を活用して、そのような人達に任せた方がより良くなるのではないかと。何よりも市民に力がつくのではないかと。全てを市で賄うというやり方はやめるべきだと思う。

(金子会長)

この5か年の総合戦略の位置付けについては、単年度の予算事業ということもあるが、今の意見を反映できるよう検討したい。

(C委員)

前回会議でも話したが、婚活パーティーは一過性のイベントである。まちの中には、おせっかいおばさんみたいな人達が大勢いる。そのような人達の総指揮をした方が良いと思う。20代、40代の人と一緒に婚活パーティーに参加しても女性たちに居場所がない。おせっかいおばさん達は市内に大勢いるので、そのような人達を組織化した方が良いと前回会議で話をさせていただいた。

(金子会長)

それも参考にしたい。それでは、四之柱の意見をいただきたい。四之柱については、暮らしの充実に関する分野になる。防災や公共交通の充実、医療・介護、生涯学習、安心・安全・安定した生活を営むことについて支援をする。指摘等あればお願いしたい。

(B委員)

諏訪市から茅野市へ移住する人達の大きな理由の一つが水害だ。諏訪市が経験した災害の中で一番多いのは圧倒的に水害だ。水害への心配があるので移住する。水害対策をすることが、諏訪市に住居を建てていただくことにつながる大きな部分だと思っている。ここに地震のことは記載しているが、過去に経験した災害を受けて、きちんと対処するという文言が是非必要ではないか。

(金子会長)

盛り込みたいと思う。そのとおりである。KPIについてはどうか。かりんちゃんバスの利用者数とか、指標がとれる範囲の中で担当部局は色々工夫しながら設定している。「すわまちくらぶ」利用者数など、指摘があれば伺いたい。

(A委員)

四之柱を見ていると総合計画の焼回しのような感じがするが、これは総合戦略と関係しなければならぬという制約はあるのか。

(事務局)

総合戦略には総合計画と整合をとるといふことは言われていない。先ほど説明したとおり、来年度、第五次総合計画後期基本計画の策定があるので、総合戦略とも整合を取りたいと考えている。

(A委員)

例えば、教育とかCCRCが施策として盛り込まれているので、そこに重点を置いたまちづくりというところにフォーカスした予算取りや施策を実施した方が、むしろ総合計画と棲み分けができて良いのではないか。そうでなければ、本当に人口の流れを変えて、都心から人を呼び込むということにつながるのか、今いる人達の満足度を上げようという総合計画だけで本当に大丈夫なのかという心配がある。

もう一つは、私が以前発言したエネルギーについて55頁に記載されているが、発言の意図は広域的視点が必要だろうということだ。来年度から電力小売りの自由化が始まる。おそらくエネルギーの需要が供給を上回るところは料金が上がって、そうでないところは安くなるというかなりのばらつきが出てくる。こうした中で売り買いが進んでくる可能性が高いと思う。そのときにエネルギーというのは、一つの経済単位、生活圏としての全体最適を図った方が圧倒的に効率性を上げることができる。例えば、諏訪地域は工場が動いて昼間の電力需要が上がっている。このままでは料金が上がってしまうとなると、10%これを絞るといふことは今のテクノロジーで可能である。諏訪地域全体としてのエネルギーの効率化という視点を入れる。広域での話し合いになるかもしれないが、諏訪地域が、「どの地域のどこよりもエネルギー効率が高く安く電力使えます」と企業を呼び込むとか、安全・安心の暮らしができるという呼び込みにもなるということが発言の意図である。単独でやれば良いという

問題だけではないのではということ。

(金子会長)

6 市町村単位ということは、諏訪市の総合戦略においてはしっかりと視野に入れるということで進んでいる。ただし、その 6 市町村における戦略は、長野県版の地方版としての諏訪管内の目標というのが一部あるだけだ。6 月に正副連合長会議で提案したが、時間と労力とがなかなか噛み合わないということで難しかったので、視野に入れながらということになった。今の指摘のエネルギーについてどうか。諏訪市の中に取り込めるのか。

(事務局)

単純に諏訪市の施策として盛り込むことは難しいが、取組の中に広域単位で取り組むという広い部分があるので、その中に加えて広域で取り組めるのではないかとという視点で書き込むことはできている。参考としてやっていきたいと思う。

(金子会長)

忘れないように工夫をしてもらいたい。大事な指摘だと思う。他にどうか。

(D委員)

今回、KPI 設定にとっても苦労されたということがよく分かる。ただ、例えば「蓼科保養学園」や「すわまちくらぶ」の来場者という、ちょっと苦しいなという感じもする。

地域包括医療や地域包括ケアという言葉は、主な取組としてではなくて、もっと上の部分で示した方が、四之柱の魅力が上がると思う。総合戦略がホームページに掲載されて、都会から U ターン、I ターン、あるいは移住ということになったときに、医療とケアという問題が年を取った人には魅力的になってくると思う。特に地域包括ケアという言葉は主な取組ではなく、もっと上に出してまとめていった方が良いのではないか。

(金子会長)

先ほどもあったが、移住のとき最も重視されることが、子どもの教育と医療のサービスが充実しているかの 2 点だと言われている。諏訪赤十字病院は、信州大学に次ぐレベルの「DPC 病院Ⅱ群」という認定を 2 年連続でとっていて、大変有能な高度医療を提供している病院である。そのアピールがもう少しあった方が良いのかもしれないし、地域包括ケアで医療と介護の連携がこれからのテーマであるが、指摘いただいたそのポイントをアピールできるような表現の中でできるか。

(事務局)

16 頁の四之柱の基本的方向の中には、「医療・保険・介護の連携による「地域包括ケアシステム」の実現」というように、文言としては入っている。前面に出ているだけで弱い部分があるのかもしれない。意識はしているので、もう少し強調して書けるところがあれば対応したいと思う。

(金子会長)

それでは全体を通して意見・指摘をいただきたい。

(F委員)

58 頁、四之柱のところ、小児夜間急病センターの利用者ニーズというのは、増えることを目的としているが、子どもが健康になれば減る目標になると思うが、小児夜間急病センターの利用者数を増やすということを目指すのは、何となく子どもが不健康になるというか、目標として適さない気がするがどうか。

(金子会長)

小児夜間急病センターは、夜 7 時から 9 時に利用できる。小児科の先生に負荷がかかっている上、諏訪赤十字病院へ行くと救急救命の受付になってしまう。それをフォローアップしようということできた。したがって、病気になるという目標というのではなく、お医者さ

んの不足、診療の不足をフォローアップするということなのだが、子どもの数が減っていく面において、この数値が適当かどうかということについては議論いただければと思う。事務局の方で目標値の設定根拠があるか。

(事務局)

市長が説明したとおりで、諏訪赤十字病院の負荷を減らすという意味の指標になっている。子どもが熱を出し日赤へ行ってしまうと、日赤の救急の負荷がかかるということで小児夜間急病センターができた。こちらをなるべく利用していただきたいということで、地域医療を守っていこうという指標になっている。確かに子どもが減る中で伸びるのはいかがかということもあるので、もう一度検討したい。この指標を使った理由というのは、主に地域医療を守るため、この病院を広く利用していただきたいという目的である。

(金子会長)

傾向として利用者数は減ってきているので、数字についてはもう一度精査したいと思う。他にどうか。

(B委員)

諏訪市を訪れた観光客にがっかりさせないことが大事だと思っている。その一つが高島城である。たまたま聞いた観光客の話では「中は安アパートだ」とのことであった。せっかく来ていただいて、中の造りが鉄筋コンクリートなのは仕方ないが、もう少し中を綺麗にして、観光客にがっかりさせないような工夫が必要だ。来ていただいた観光客の皆さんに、「もう一度来てみたい」と思わせる、そんな努力があって欲しいと思う。

(金子会長)

高島城の維持管理は諏訪市の責任なので、これは総合戦略に位置付けというよりは、市の観光施設管理ということで意見をいただいたと捉えさせていただきたい。

(C委員)

子ども達がこのまちを好きになるとか、そして大きくなってこのまちに戻ってきたいという中に、いわゆる文化というものがあると思う。芸術文化や伝統文化をきちんとこの地域の中で育んできたかということ、あまりそのような機会がなかったように思う。子ども達が一緒になってどこかで発表するとか、市民が一体となってステージで披露するということがあまりなく、この地域の中でもう一回ここへ戻って、小さい頃受けたあのイメージがとても良いということがなかなかできないと思う。地域の中でそのようなことを伝統的に育んできたということが、茅野市のように取組があるかということ、なかなかなかったような気がするし、それを市全体でやっていこうということもなかったように思う。そして、市長が言うように、広域の中で、合併により山梨県の南アルプス市や甲州市のようになってくると、一体どこからどこまでが自分たちの郷土なのか分からなくなってしまうが、諏訪地方はそういう意味においては、どこが諏訪市だということがはっきりしている。

また、数値目標の進捗管理について、市民に伝えることができるようにすることが重要である。一番わかりやすいものは数値目標の達成率だと思うので、ぜひ公表してもらいたい。文化という自分の心の中に住みついていたものが、都会へ行っても地域を思う気持ち、帰ってこなくても地域を思う気持ちというのは、税金にもつながってくると思うので、その辺を考えていただきたい。

(金子会長)

文化や郷土を思う気持ちを数値目標やKPIにするのは大変難しいが、事務局はどうか。

(事務局)

今回示した数値目標、KPIについては、達成度を公表していかなければならないと考えている。また、そういう性格のものだと思っているので、毎年ある一定の期間ごとに達成状況

をホームページまたは広報等で示したいと考えている。できるだけ良い形で皆さんに分かるように、せつかく策定した総合戦略がどのくらい進んだということが分かっていたらいいような工夫をしていきたいと思っている。伝統文化の捉え方については、事務局としても難しい部分であるが、どのようなことが示せるのかデータ等検証してみたいと思う。

(金子会長)

地域文化とか伝統を思う人の数がどれだけ増えたか減ったかという指標か。

(C委員)

そういうことではなくて、もっと伝統文化を掘り起こしてもらいたいということだ。

(金子会長)

取組の中に入れるという認識で受け止めさせていただきたい。

(C委員)

ただそのような企画をして表彰したとか人を集めたということだけではなくて、子ども達と一緒に参加できるような場や発表の場など、全市的にやってもらえるような企画に育ってもらいたい。それをお願いしたい。

(金子会長)

受け止めさせていただきたい。そろそろ時間が迫っているが、タイトルについては、「最先端に挑み続ける「ものづくり」で「ひとづくり」、「輝くSUWA」の創生戦略」とさせていただいた。「ものづくりとひとづくり」が良いのではという意見もあったが、やはりここでは、「で」ということに想いがこもっているということで、これを案としている。これで良いか。

(異議なしの声)

(金子市長)

総合戦略案はパブリックコメントを実施している段階にある。本日皆さんからいただいた意見については、パブリックコメントでいただいた意見等も含め、12月に最終案としてまとめていきたい。本日この場では、この案をお示ししたということで了解いただけるか。

(異議なしの声)

(金子市長)

ありがとうございます。それでは事務局に進行を戻したい。貴重な意見を沢山いただき感謝したい。

4 その他

次回以降の会議日程と内容について、事務局から説明があった。

5 閉会

(藤沢副会長)

長時間お疲れ様でした。また、事務局には忙しい中、ここまでとりまとめていただいた。最近、外部の有識者の話を聞く機会があり、地方創生のキーワードということで、色々な地方で色々なものをつくって外国や国内の観光客を呼ぼうとするが、地域が売ろうとしているものと観光客が求めているものが、逆になっていることがあるので気を付けてほしいという話があった。具体的には、我々が見逃しているようなもの、例えば、田舎の古民家のようなものに、外国の方が非常に興味を持ってご覧になる。一方で、「〇〇センター」というものは、

ほとんどご覧にならない。こういうことによく気を付けてくださいというのが非常に印象に残っている。

会議も残りわずかだが、諏訪市の総合戦略の中に盛り込まれている具体的な施策についても、そのようなことも気に留めてと期待している。

以上